

領域番号	4801	領域略称名	思春期主体価値
研究領域名	脳・生活・人生の統合的理解にもとづく思春期からの主体価値発展学		
研究期間	平成28年度～平成32年度		
領域代表者名 (所属等)	笠井 清登（東京大学・医学部附属病院・教授）		
領域代表者 からの報告	<p><u>(1) 研究領域の目的及び意義</u></p> <p>本領域は、「毎日の生活を暮らし、自分の人生を生きる」という人間にとっての最も基本を支えている精神の機能としての「主体価値」が思春期にどのように形作られ、それにより人間のウェルビーイングがどう実現されているかを脳科学、認知科学・情報工学、疫学、心理学・教育学・精神医学などの学際研究により解明することを目的とする。思春期は非ヒト霊長類と比べてヒトで際立って長く、大脳新皮質の成熟の最終段階である。同時に、児童期までの親子関係から、仲間とのより多様な経験で結ばれた社会関係へと発展する決定的な時期である。そこでの豊かな経験を通じて、実生活のなかでの長期的行動を無意識的・意識的に選択する動因である価値 value は、内在化・個別化され、ひとりひとりに個人化 personalized された主体価値へと発展し、これが人間社会の多様性をもたらす。本領域を推進することにより、主体価値の形成発展過程と脳基盤を解明し、その充実に向けた思春期からの方策提起に直結する新しい総合人間科学としての『行動脳』の創出が期待できる。わが国初の一般住民無作為抽出による大規模思春期コホート（東京ティーンコホート[TTC]）を中心パネルとし、主体価値がどのように親子や世代を通じて伝達されていくのかという Transgenerational Science、脳と行動の多様性が生まれる仕組みを疫学と脳科学の融合的解析により明らかにする Population Neuroscience を世界に発信する。</p>		
	<p><u>(2) 研究成果の概要</u></p> <p>A01 脳班では、過去の経験にもとづく価値形成と、自己制御にもとづく主体価値の調整過程の脳基盤を明らかにした。B01 生活班では、主体価値□基底生活行動□脳可塑性のスパイラル・モデルを、摂食障害・ギャンブル障害を対象としたリアルワールド脳計測とシミュレーションから明らかにした。C01 人生班では TTC 研究を進め、親が自らの主体価値にコミットできている場合、基底生活行動である禁煙が促進されることや、児童の援助希求態度に対して、親自身の援助希求傾向が促進因子に、男児における社会規範の内在化が阻害因子になっていることを見出した (Transgenerational Science)。英 1946 出生コホートとの国際共同により、自己制御が低くても思春期に内発的価値を内在化できた場合には、高齢期のウェルビーイングが高まることを明らかにした。D01 発展班では、日本人の主体価値の構成概念と価値に基づいた行動変容の脳基盤を明らかにしたうえで、心理介入プログラムを開発し、有効性の検討を進めた。TTC サブサンプルに対するバイオマーカー研究 (Population Neuroscience) を進め、第一子より第二子以降の方が積極的に利他的にふるまう主体価値傾向が強いという関係性を扁桃体体積が媒介していることなど、全く新しい知見を見出した。</p> <p>公募班では教育学専門家による中学生への主体価値促進プログラムの開発など、計画班で不足している分野の強化が行われた。国際活動支援班では 4 名の研究員を海外拠点に派遣して成果を挙げた。</p>		

<p>科学研究費補助金審査部会 における所見</p>	<p>A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)</p>
	<p>本研究領域は、「主体価値」という難解だが人間が生きる上で重要な側面に対して、脳機能、比較行動、比較文化、大規模コホート、量的研究と質的研究、健常者と非健常者など、可能な限りの多様なアプローチをバランス良く配置して研究を展開・統合している。主体価値が思春期にどのように形成され、それが生涯を通じた幸福感にどのようにつながっていくのかという優れた問題設定を行い、現在までに既に数々の興味深い成果が見出されている。期待どおり順調に研究が進んでおり、今後のより一層の進展が期待される。</p> <p>研究組織については、研究者相互に有機的連携が保たれ、研究が効率的に進められるものとなっており、若手・女性研究者の育成にも尽力している。また、医学領域の専門家を中心的に配置しているが、生物学的・医学的な形質に調査対象を限定することなく、思春期という発達の時期に重要な学校教育・学校制度への適応と、現代日本の青年が直面する問題へのアプローチについても配慮し、研究を行っていることも評価できる。</p> <p>今後、各研究項目の全体の中での位置付け及び研究項目間の関係を更に明確化して、この優れた問題設定を反映したユニークな研究成果を期待する。</p>